

閉塞性睡眠時無呼吸(OSA) AHI に対する胴体と頭の向きの効果

参照文献：Sleep 2011 に掲載 (SLEEP2011;34(8):1075-1081)

研究目的：体の向きとは別に、頭の向きが睡眠時無呼吸患者の無呼吸にとって重要な要素であると言う仮説を実験してみる事。

設定：St. Lucan Andreas Hospital, Amsterdam, the Netherlands

参加者：300 人 (OSA と関連性がある為、われわれの部門が関係した)

測定と結果：参加者はポリソムノグラフィー検査を、センサーを 2 か所に付けて一晩受けた。一か所は胴体に、もう一つは額中央。

300 人の内、241 人は AHI>5 に基づいて OSA と診断された。

この 241 人の内、199 人が体位による OSA かどうかの分析が可能であった (額と胴体の位置センサーを使用して)。(仰向け寝ではない AHI と比較して仰向け寝の AHI は 2 倍高かった)：

この 199 人の内 41.2%は体位に関係無く、胴体センサーによると 52.3%は仰向け寝が原因。額センサーのみによると 6.5%は仰向け寝が原因。

胴体仰向け寝グループの 46.2%は、頭位置が AHI に著しい影響を与えた。(頭を横に向けた時と比較して、頭も上向きの時は AHI は大きかった。)

結果：この研究の結果は、OSA が生じるのは頭の位置も関係すると言う私たちの仮説を確認する。これゆえ、体位が原因の OSA と思われる参加者は胴体と頭にセンサーを付けた睡眠記録が考慮されるべきです。